

911.3

7

卷之五

清溪子

安受二
卯孟春

清齋



昔やるををわたり此座の宮
 雲をくもりて枯るを葉のしる菊
 能くつりのしるくとうと免け所のそ
 人々みりて何んぞむすむ老のま
 思ふれむんまほ柳れまゝこか那
 花散るのむすむくくくくく此菊
 名をれまをきりてまむやふのそ
 雲よりりり今も雲れ流くの那
 まるや流れたるまをひく枕

舎用
 宗言
 心何
 如雲
 五雲
 文人
 長伴
 樓歌
 風聲

町をぬれしとも如尼了柳のれ 魚遊

夢もあれたのしや能平のしや鮎鶴 柳子

夕陽れしや心志たけしやの影 大具

ふれはのしや限りをぬれぬるまゝのれ 素好

うしやまをぬれぬれありしや心志 松眠

未だ中ぬれぬりぬれぬれぬれのれ 松葉

おやあしをぬれぬれぬれぬれぬれのれ 御産

何ありぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 葉之

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ ぬれぬれ

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 春林

りぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 飛し

一寸あしぬれぬれぬれぬれぬれのれ 葉枝

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 梅魚

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 春水

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ ぬれぬれ

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 梅心

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 雪山

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 未洋

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 漁邦

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ 如扇

ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれのれ ぬれぬれ

あさひの月を眺むるはさきききききき

成風

あさひの月を眺むるはさきききき

玉水

あさひの月を眺むるはさきききき

通仙

あさひの月を眺むるはさきききき

露生

あさひの月を眺むるはさきききき

芳水

あさひの月を眺むるはさきききき

山

あさひの月を眺むるはさきききき

喜吟

あさひの月を眺むるはさきききき

柳英

あさひの月を眺むるはさきききき

是山
和秀

あさひの月を眺むるはさきききき

子旗ぬ

あさひの月を眺むるはさきききき

未山

あさひの月を眺むるはさきききき

之直ぬ

あさひの月を眺むるはさきききき

古推

あさひの月を眺むるはさきききき

山水

あさひの月を眺むるはさきききき

若止

あさひの月を眺むるはさきききき

宗辞

あさひの月を眺むるはさきききき

文遊

あさひの月を眺むるはさきききき

米山

あさひの月を眺むるはさきききき

南浦

水邊より花の吹雪くさるるあらし

智函

きりぎりすや雪のふりや花の露

洞月

暮るる月も北端きむすむす

素久

夢強しおぼしめしぬの如く寒夜に

一知

節に花をかりる花とれあまのち

無兄

裏板を醒のしめしめしあまを

湖立

新涼しあまのあまをりりりり

一止

あまのあまのあまのあまのあま

赤月

名もいふことれぬしりりりりり

梅芬

娘もれぬり枝のしりりりりり

双橋

花もあまの娘もあまの娘も

蜀洋

あまのあまのあまのあまのあま

南月

雪もあまのあまのあまのあま

江月

秋もあまのあまのあまのあま

松窓

暮もあまのあまのあまのあま

湖月

あまのあまのあまのあまのあま

由道

帯もあまのあまのあまのあま

圭浦

あまのあまのあまのあまのあま

芦閣

あまのあまのあまのあまのあま

森村

月をみてもさういふ言へば浦の山 ヤモト 柳江

いれ法面や志す一宵の何ぞ重きつら 一三ツ 第一

はまをゆくやあやあやうら 一三ツ 静多

夢の川流の折れあふれ 一三ツ 立弁

粒の河原へ空見れば八月何れ 一三ツ 其標

暮れ色の中へ入る 一三ツ 青風

舟の心や物凡 一三ツ 巴燕

川舟や 一三ツ 新里

思ふつら 一三ツ 錦岱

不測 一三ツ 蒼雪

吹雪 一三ツ 柏

風 一三ツ 柳心

ま 一三ツ 栢林

舟 一三ツ 緑園

花 一三ツ 古孫

雲 一三ツ 栢枝

雲 一三ツ 松亭

雲 一三ツ 美足女

雲 一三ツ 苔洞

雲 一三ツ 如栢

迷ふを誰か... 山文

旅をふおこれら... 三省

人々とをいれ... 月橋

ぬき脚の歌... 茅陽

新のまを水の新... 森繁

百箇に定... 一真

去りかや... 清水

折のり... 落岳

散ら... 松圃

妙く... 一美

后を... 龍子

晴き... 安眠

うら... 如洒

橋の... 永仙

る... 民山

空... 虫枝

取... 仙菜

ま... 咲露

は... 若栞

子... 蘆坡

月御や 菅菰 一吐我花よ

白花

起るのち水のうしろの中をくもる朝

木栴

寐年より心秋をいし夢や 菰花相

卯啼 サユマ

河のうしろに 菰花相 花をいし

菰月

見とらるを空をえり移る 花月

东桂

花をいし 花月 花月

雪登

月御のうしろ 海の中をくもる

朝巢

沖にせぬ 中身をくもる 花月

巢窟

花をいし 花月 花月

菰月

おきあけのうしろ 花月 花月

之栴 オチカラ

花のうしろ 花月 花月

素葉

花のうしろ 花月 花月

桂丁 ヒカヒ

花のうしろ 花月 花月

梅重

花のうしろ 花月 花月

赤花 ヒメミ

花のうしろ 花月 花月

田村

花のうしろ 花月 花月

きよめ

花のうしろ 花月 花月

草菰

花のうしろ 花月 花月

一圭

花のうしろ 花月 花月

东角 士峰

清き山は元々川に如き涼し

ケ三

竹島

夕方のや雲ありたし一志あり

身流

あけのさきこころしき雲あり

竹嶋

多を巻きたるる老りり角力取

然哉

十六夜や何れも竹をうたれ新

呉咏

人れらるるまじきうとあはるのきし

竹汀

少なれし人の由かりしや茶指歌

一秀

園をすこころのころしき川橋

イヤ堂

五葉

都つれ節をうたれりしあはれ

竹堂

梅のさきと生ありは年忘れ

帆山

あちかふ火の焚き火しき火箸

一篇

新燈に清れはに布上紙帳の如

ナリ上

可有

葎りしはれし人下や枯の標

浦越

山れりのりあけのさきあはれ

知仙

三百自れまき田乃露あはれりり

菊寸

あはれをまきれし人れきりあは

市谷

ちり雲ありて路のむらさき柳の

ナトリ

浦玄

あきしむむお空を法あはれし入

葉久

と物心まき手ありを巻かじり

詠柳

井あはれや雀起り心標北井

松花

為る取のわらみ見え下り此れ 秋

白

雄節

おく 露にそれゆ一帯一室芥子

李冠

能と近う見え下り此れ 喜見

加菜

ぬれを身度りかき下り此れ 芙蓉

カクナ

二扇

夕飯に治ゆり此れ 照了入梅

宝三

空より梅れ 露に花より竹 婦人

松号

うと 飛石ゆち此れ 山月老を唱

き圭

新法免ハ 露に生草中此れ 此れ

ハタリ

九竹

幾号をたき下り此れ 雪吹

き洲

のー 過る 露に生草中此れ 此れ

梅冲

春れ 秋の 露に 花に 枝家

竹翠

うそ 空り ちり 露に ちり

芳鳩

梅れ 妙拂 下り 露に 此れ

ツルシ

梅成

世に 此れ 露に 此れ

タハ

多々

川に 身 露に 此れ

清氏

照身 露に 此れ

フニク

紐関

立門 中り 露に 此れ

ハンタ

梅士

庭に 草を 露に 此れ

竹象

旁に 露に 此れ

風波

味絶くををふる芥子此書く
紫陽花やとれりわたりあけし
露のうりつて萩の月入甚か
多しれを驚れをわたり清水の
裏ありて甘き多し伸や牡
紫陽花の中を縁窓ありの
海よりくる折の歌呼くを
河のほとりや流るる水は
夕日此河の中流るる水
宿ありて里ありて揚北人

大費
分字
巻島
西美
直柄
柴五
与之
森山
とめ女
挑括

一
味絶くををふる芥子此書く
紫陽花やとれりわたりあけし
露のうりつて萩の月入甚か
多しれを驚れをわたり清水の
裏ありて甘き多し伸や牡
紫陽花の中を縁窓ありの
海よりくる折の歌呼くを
河のほとりや流るる水は
夕日此河の中流るる水
宿ありて里ありて揚北人

一保
律左
也的
物好
遜河

女不記りれをわたりて
梅の香ありて室れをわたりて
文れやすれはを川板の舟
見たりて清くも流るる萩の

英泉
東里
丁酉
鬼川

何れもくしくぬも進まぬ清水も
 松のふれおらそあまもやゆれは
 山水やそれおくれはあまのけ
 州平の記を志りては高野あり
 汁は実の葉身きりみゆ水
 飛く雨の松風や海苔は味
 州へおはれはあまのけ
 都のまれはあまのけ
 上記程のふれはあまのけ
 松のれおはれはあまのけ

東島

夷流

夷菊

六槐

大洞

如水

大車

望心

松溪

南郭

水附れはあまのけ
 種まきはあまのけ
 ちりまはあまのけ
 凡そまはあまのけ
 神おはれはあまのけ
 とりてはあまのけ
 危りてはあまのけ

桂唯

匠人

風志

爰彦

井田

之象

木之

を乙

然洞

打堂

物をあらた地をあらたしとてわがまをうつ
一物をもたぬ所へも白く降りし宿
あつらひせしむれば根岸や 冬へまき
まのむねやわりのそとをきく 庭北村
まをきくゆのゆいあふれり 五月白
清むらぎ 花れをきくれぬまきの水
月をひきかきし宿のゆいあふれり
風切らるる月をきくゆいあふれり
まをきくゆのゆいあふれり
あつらひせしむれば根岸や 冬へまき

浪歌
魯高
鬼風
南秀
蓬仙
秋露
雪山
可笑
會風
芦葉

あつらひせしむれば根岸や 冬へまき
まのむねやわりのそとをきく 庭北村
まをきくゆのゆいあふれり 五月白
清むらぎ 花れをきくれぬまきの水
月をひきかきし宿のゆいあふれり
風切らるる月をきくゆいあふれり
まをきくゆのゆいあふれり
あつらひせしむれば根岸や 冬へまき

和文
春南
矩友
正古
里畧
芦川
交音
北麟
粉柳
香昔

多々佳哉と云々... 車陸

物... 小生を 一僂

町... 玉之

右... 南江

撞... 之帛

ふ... 黄之

名... 龍山

山... 推山

古... 中ら哉

秋... 柳陸

海... 具重

島... 呂月

浦... 南溪

百... 逸志

茶... 倚

島... 杏調

梅... 李補

お... 海江

龍... 禽鳥

長... 接と

あふふの橋ののこみし山寺ののり 筆女

ふゆのうきあらしのあや 三橋 東海

さしつとと垂れたるのれを 三橋 三橋

海れくしりつえとて喜れ 素心 素心

枝ありふ好くを月えは接あつて 幽作 幽作

自ら月存とてを魚を 桂山 桂山

吾よりあれまのりしをれ 茶之 茶之

多版やとれを法れれ 湖海 湖海

波ありてを心ありのれ 松圃 松圃

吾より心ありてを心ありのれ 布山 布山

夜の仲もれれとてをれ 御風 御風

のれ法中れりてをれ 大言 大言

福のくを志ありてをれ 如春 如春

かゝ法や法中れ 雪真 雪真

あれ程う何所よりとてをれ 此 此

融し程より安を法りてをれ 雲 雲

融志ありてかゝりてをれ 霧 霧

月より影ありてをれ 良和 良和

吾より中れりてをれ 有柳 有柳

岩をくす水や雲あり 下河の利 共谷
起くく月かろるたうやや雲れを 出年
けり帆のやうなて雲一雲れ峰 河峽
底を砥何くく水れ流す 吹風

杉風をおきく 流るるくくく物ゆ空 蒼
松のやうや中勢は 秋の色 若く 葦 佳風
そよよのやうくくく 雲のやうくく 桂
水底に流るるくくく色ゆき 素机 東鼻

山のやうくくく 雲れ山れ白 湖云
かゆれりれたやうくく 秋の光の 崖鏡
遠ゆく 雲をくくくく 水底志を 岸若
色くくく 水れくくく 風や 旭峰
山鏡をみくく 産れ石は 野所
おぬけく 机のくくく 秋の 芋菜
雲の細くくく 月 月悠
きくくく 水夕 秋のくく 魚古
みくく 水や 垣根 岸 白ん 楓柳

喰法みやるるもあそと記難ゆら

隅に河の一釣小生を竹とて也

屋よりあやうきさるる高小志これう

裁ひ戸北あさしりやとて此等

人々のさむらあつてえれり秋め山

春風やいりぬれ合を流ひ

月法一甚月外人の教ふまれり

船北あそむたしりやの夢を夢源し

舟を流す心とて生流れ河にしか

いれ流す此初れしものれり光この初

炭法ゆきふんぬるやの初れり初る

魚を流す心とて生流れ河にしか

くく記難れ何ふとて外一梅の香

出いそきり枝心とてこれとて菜摘

かれ菊や柿やりの心一葉く

望し雲やちうとて花片とて心とて

狭むしん此難きさうや月とて雪

法みやれこれうも鶴や撥をみ

恒を流す心とて生流れ河にしか

可有

星梅

き琴

雀峰

又芳

翠峰

月良

清水

鷺氏

古儀

古棠

和書

東郎

秋勝

孤舟

丁庵

好静

其山

友耕

ちりつをぬか鴨のよきる河うゆ
松きなりけ 休 ともありて梅北木
もあも 湯きすいぬり初うも
それとあこ 羽子切うう 深のぬ
うけ 赤風の中んよき 言は角梅
新のうやるを 佐藤北枕のゆ
茶山

ぬる流うてそれよん入きむー枕
蒼きうれあき 岸うらぬ 雲のぬ
りの雲て ちりつをぬか北木
巨泉

上
市

水月 雲れ 古布れ 雲の梅
あき雲の定中こ 徳一 岸きり
新冷れ水 岸ととと 中 雲れ花
川北 湯ぬ 一 彦 雲 下 結 相 鳴
掃よせき 物き心 柳 中 梅 北 雲
ううあき 梅を けあき くらふぬ
雲 岸 ぬれ 雲 け 雲 け 雲 雲
芦北 岸 ぬれ 雲 け 水 岸 ひ や 一 丘
ううあき 吹ぬれ け 雲 け 雲 雲
雲 近 け 雲 け の 梅 根 中 ぬ け 雲
雲 山

下
ヶ

和 南

風とらそ 淋しみわそく 其河

雲らそく 和衣ささる 其翼

たそ交りき 露のさしり 筑山

まほしん 帯 出 洋 舟

うらと 夕やれ 舟の波 舟

人多れ せん 舟田 舟

りま 舟 舟 舟

き 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟

控のねとまのつるき種也一様此実

中より志く目南北法より此の身

片に法より始り此の類より為

之より片に裸火に於れども此の

法より此の類より此の類より

類より此の類より此の類より

株より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

古月や萩より一意に此の類より

浦北家より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

此の類より此の類より此の類より

青圃

水海

酉山

字補

可久

松圃

溪富

由整

祖紹

西馬

得甚

抱像

并裁

尋高

古手

糸古

鳥吹

栗然

泰我

黄屋の御茶の生を借しり利

山子

夕紅れあつたに何まうしあはれ

之啓

輝火の言もく新れ地あり市

新幹

みちのちやあまのくけり

為山

みちのちやあまのくけり

りまのれやあまのくけり

良湖



